令和７年度第４回（第 13 期第３回）さいたま市社会教育委員会議　会議録

開催日時：令和８年３月 16 日（月）10 時 00 分～11 時 45 分
開催場所：第二別館１階第１会議室
出席者名：【委　員】梶野　光信議長、石川　敬史副議長、石﨑　敬吾委員、
岩城　明子委員、蝦名　るみ子委員、澁谷　知範委員、
関根　広美委員、田中　亜弓委員、野津　美智代委員、
橋本　洋光委員、矢作　修一委員、和田　洋樹委員
【ＮＰＯ法人浦和スポーツクラブ】
小野崎　研郎理事長、飯高　一郎理事
【事務局】（生涯学習振興課）八島　典子、玉城　伸、柳田　正明、
山本　直子、三村　悟、伊藤　智美、
駒井　友里香
欠席者名：　小林　玲子委員、鶴ヶ谷　柊子委員、吉川　洋一委員
公開・非公開の別：公開
傍聴人の数：なし

１　開　　会

２　挨　　拶

３　議　　事

⑴　前回会議について

令和７年度第３回会議の概要について、会議録に基づき説明した。

⑵　ワークショップ

ア　事業説明

資料２に基づき、ＮＰＯ法人浦和スポーツクラブ様より、同団体の取組についての説明が行われた。

【質疑応答・意見】

＜澁谷委員＞

スポーツの楽しさを軸に参加のハードルを下げ、地域の交流も生み出しながら、長年にわたって運営されていることは大変素晴らしいことだと感じた。

運営はご苦労が多いと思うが、多くの方が参加される中で、ボランティアやスタッフ、シニア世代や大学生など、どういう形で参加を促し、運営に関わってもらっているのか、地域スポーツクラブを支える仕組みについて、特に工夫されている点をおしえていただきたい。

＜小野崎理事長＞
　運営としては、管理型にしすぎず、まず始めることが重要だと考えている。指導者不足を理由に始めなければ何も広がらず、場を作って活動を続けることで人のつながりや協力者が自然と生まれる。課題は場所の確保だが、実際に活動を継続する中で参加者や支援者が増え、人材も集まってきた。特別な方法があったわけではなく、活動を続けてきた結果だと思う。

＜飯高理事＞
　理事長からは日々の具体的な活動、いわゆる「木」の部分について話があったが、「森」の部分も非常に大切だと考えている。「浦和スポーツクラブの存在意義とは何か」や「街を笑顔にする」という大きな目標を月１回の理事会や、各理事が持つ担当部門を通じて指導者と共有している。
　このような理念の共有を忘れずに運営することが重要だと感じている。

＜蝦名委員＞
　大変組織的で素晴らしい活動を行っていると感じている。クラブ名にもあるように浦和を中心とした活動であるが、さいたま市全体を見ると、ここまで積極的に組織化された活動は少ない印象である。今後、活動をさいたま市全域に広げるような考えはあるのか伺いたい。

＜小野崎理事長＞
　2000 年代には行政の支援もあり、地域スポーツクラブ設立が進められましたが、継続や拡大に至らなかった例が多くあった。当クラブが発展した要因は、種目を限定せず、地域の声に応じて自然に展開してきたこと、また施設を安定的に利用できたことである。特定のチーム育成ではなく、子どもが自由に参加できる場を提供し、希望する子どもは他の専門的なクラブにつなぐ方針を取ってきた。その結果、活動が地域に根づいたと考えている。新たなクラブ設立の予定はないが、要請があれば支援は可能である。

＜梶野議長＞
　会員数は約 800 名とのことだが、年齢構成を伺いたい。

＜小野崎理事長＞
　会員の年齢構成はジュニア（小・中学生）が約 350 名、一般が約 300 名、シニアが約 150 名である。全員が活動を継続しているわけではないが、星空サッカーや星空バドミントンなど、会員制でない活動もあるので、そのような場では過去に会員だった方々とのつながりは続いている。

＜梶野議長＞
　ジュニアの中では、低学年が多く、５・６年生が少ないといった傾向はあるのか。

＜小野崎理事長＞
　活動は週１回で負担の少ない形にしており、来られるときに来るという仕組みで行っているが、５・６年生は少なく、全体の約１割程度だと思う。

＜梶野議長＞
　受験との兼ね合いは、やはり影響が大きいと感じる。

イ　グループワーク（発表）

＜Ａグループ（発表者：和田委員）＞
　お話を伺う中で、何よりもまず組織運営が非常にうまく行われているという点が強く印象に残った。地域の組織では、地元の有力者がトップに立ち、その合意のもとで物事が進むケースも少なくないが、今回の事例ではそうした形ではなく、運営に関わる方々が共通のビジョンに共感し、同じ方向を向いて組織を動かしていると感じた。このような一体感のある運営が、組織の持続につながっているのだと思う。多数のコースを設定している中で、有名な講師を招くなど、費用がかかるような大胆な取り組みも行っているとのことだが、それは理事や運営メンバーで共通のビジョンがしっかり共有されているからこそ実現しているのではないかと感じた。組織がきちんと機能していることで公益性も認められ、結果として施設を借りやすくなるなど、良い循環が生まれているとのだと思う。
　また、裾野の広いゆるやかな参加の仕組みがあることで、新しく地域に入ってきた人たちも関わりやすくなり、従来の地域スポーツ活動では生まれにくかった新しいつながりが生じている点も印象的だった。多様な属性の人が関わることで、組織全体の運営力が高まっていくという良い循環が生まれていることが資料からも感じられた。

＜Ｂグループ（発表者：田中委員）＞
　まず活動を続けていく上で大切なのは理念の共有であると考えた。どのような思いで活動をしているのか、何を目指しているのかが明確であり、それが関わる人たちに伝わっていることが重要だと感じた。また、どこで何をしているのかが分かりやすい広報や、参加するきっかけがあることで、人が集まり、活動が継続し、人と人をつなぐことができるという意見が挙がった。
　一方で活動場所の確保が課題として挙がった。学校など地域にある施設を使える場合でも、周囲の理解が得られないという問題や、安全管理をどうするかといった問題が出てくる。また、関心があることや楽しく好きなことを好きなだけ続けていくというきっかけづくりがあるが、特に義務教育の年代の子どもたちに対して、「好きなことだけでよいのか」「嫌なことにも向き合う必要があるのではないか」という、その年代ならではの難しさについても意見が挙がった。
　これらの課題を解決するためには、地域住民や学校、参加している保護者などがそれぞれ理解し合い、連携して支えていくことが必要だと考えた。

＜Ｃグループ（発表者：野津委員）＞
まずこの浦和スポーツクラブ様の活動が非常に素晴らしく、ぜひ市全体に広がってほしいというところから話が始まった。特に素晴らしい取組であると感じたのは誰もが参加できるという点ある。競技を極めたい人もいれば、気軽にスポーツに触れたい人もいるため、年齢やレベル、小さな子どもからシニアまでのそうした垣根をできるだけ低くすることが大切だと感じた。また、どんな家庭でも参加できるように、料金面でのハードルを下げることも重要だという意見が挙がった。
さらに、親子で一緒に参加し、楽しめる活動は、家族の笑顔や気づきを生み、生涯を通して学びを楽しめる人を育てていくという点でも非常に意義があると感じた。
一方で大きな課題として挙がったのが、活動する場、つまり施設が足りないという点である。学校施設の利用には限界があり、なかなか貸せない現状を踏まえ、企業が持つ体育館や空き地などを活用できないか、行政と企業と連携することで、双方にとってメリットのある仕組みが作れないかという話になった。
また、情報発信についても、積極的に学びたい人には届いている一方で、関心を持っていない人、触れる機会のない人にどう働きかけるかが今後の課題だと感じた。

ウ　本日のまとめ
＜石川副議長＞
今回は浦和スポーツクラブ様の取組ということで、私自身の若い頃の運動やスポーツの経験を少し振り返りながらお話を伺っていた。各班の報告を伺い、また私自身もB班に参加し、さまざまな課題を直接伺うことができたと感じている。
活動を進めていく上での方針や考え方、いわゆる理念についてである。それを構成員や担い手の間で、どのように共有していくのかという点が重要であると感じた。担い手に理念が浸透すれば、そこに参加している方々にも自然と伝わっていき、共感へとつながっていくのではないかと思う。何かを行うこと自体が目的なのではなく、その背景にある考え方を、組織やチームの中でいかに共有し、共感へと結びつけていくかという点が、重要な視点であったと感じている。
また、今回のお話を通じて、各種のイベントやプログラムが定期的に開催されているという点が印象に残った。定期開催という点は、非常に重要なポイントであると感じている。スポーツクラブに限らず、公民館の講座や活動などにおいても、定期開催は、自身の生活リズムをつくることにつながり、さらには地域の時計をつくっていくことにもなるのではないかと感じた。
さらに、人と人とのつながりという面では、このような活動をまとめていく人材や指導者を日常の人とのつながりの中から創出・発見できるというお話を伺えた。

＜梶野議長＞
今回は、「さいたま市生涯学習ビジョン」の中間検証・評価及び次期「さいたま市生涯学習ビジョン」に向けてということで浦和スポーツクラブ様にお話を伺い、大変示唆に富むものであった。
正直なところ、地域のスポーツクラブをうまく運営している自治体や地域は、そ

れほど多くないのではないかという印象を持っているが、そうした中で、どのようにすればうまく回っていくのか、そのヒントを数多くいただけたと感じている。

「さいたま市生涯学習ビジョン」には、小野崎理事長から本日お話しいただいたエッセンスや要素は、すでに盛り込まれている部分もあると思う。ただ、それを具体化していくために何が必要なのかという点については、本日の議論を通して多くの示唆をいただけたのではないかと考えている。

その中でも安定した活動場所の確保は特に重要な要素であると感じた。例えばホームページで活動を周知していたとしても、活動場所が毎回変わるとなると、参加する側からすると行きづらさを感じてしまうが、地域のスポーツクラブであれば、いつも決まった場所で、決まった時間に活動していれば、参加しやすく、安心して参加できると思う。こうした環境を整えるために、これから行政として何ができるのかを考えていく必要があると思っている。

もう一つ大きな要素だと感じたのが、活動場所としての学校施設の扱いである。市立の小中学校を使うことについては、地域住民や自治会との関係もあり、難しさがあると感じている。一方で、テーマ型のコミュニティが安定的に活動していくことを考えると、県立高校は大きな可能性を持っていると思う。市と県が連携する必要はあるが、こうした施設をうまく活用しながら、恒常的な活動の場をつくっていくことが重要だと考えている。

浦和スポーツクラブ様においては、ビジョンを持って活動が始まり、それが長年続いていることに深く敬意を表したい。

4　連　　絡

社教連会報の配布について、説明した。

5　閉　　会

以上

Aグループ

ゆるやかな
組織

社会から
ネットワーク
を広げる

楽しさ

スポーツする

参加者から
運営側に
なっていく

魅力的な講師を
呼ぶと沢山の方
の参加がある。

さいたま市に
移住して来た
方が入国する
パーセントが
多い。

ヨガなどの
来ている方の
コミュニティが
あるのか

子供のスポーツ
へのきっかけを
つくる
⇓
選手希望者へ
進む道筋

クラブとしての
・希望する
・趣味としての
　スポーツ
健康年齢の増進

イデオロギー
の共有を
していく

裾野の広さ

地域住民
ニーズを
くみあげる
仕組み

テーマ
コミュニティと
エリア
コミュニティ
との協力関係

「地元の人」
ではない
人の参画
受け皿

浦和SC理念
(まちを健康に
明るく)

役員の理念の
共有

運営メンバーの
価値観の共有

ビジョンが
何をもとに
できているのか

ビジョンの
明確さ
「週1回
運動をする」

理念の共感
魅力的な
コンテンツ
（=コーチ）

裾野の広さ
↓
組織運営の改善

専用のクラブ
とのすみ分け

ゆるい場の
運営
↓
参加しやすい

個人の循環
↓
地域へ広がる

多様性から
地域課題の
気づきになる
↓
解決へ

活動する場所の
安定は
運営する側、
参加者にも安心

(多世代・
多様な住民)
世代間が交流
できる仕組み
をつくる

地域住民
主体で
つくりあげる

裾野を広げる
↓
多世代
多様性

偏らない
スポーツの
種目、内容

Bグループ

考えてみよう

楽しむ
興味・関心

個人
↓
地域つながり

好きなことを
やりたい
→つながり
づくりへ

課題

活動
理解
苦情

公立中の限界
女子サッカー
ができない
場の問題

場所
（施設）

きっかけ

小さな範囲
から
複数スタート

子どもが集まる
(サッカー広場、
自由参加)
↓
大人も集まる
これは地域
だからできる

難しくない
キャッチ
フレーズ

世代をこえる

参加の場
(しかけづくり)

選択肢の多い
きっかけ
づくり

学校教育、
特に義務教育
段階の役割と
連携

身体的
健康づくり
健康寿命
幸せな人生を
創出する

やりたいこと
だけでいいの？

二極化

集まる時

広報の仕方

定期的
(地域の時計)

集まりやすい

人材

活動の中から
後継者を

担い手
（団体・
ネットワーク）

つなぐ人材の
必要性

余裕をもった
教育

地域から
働きかける

理念の共有

学校の壁
・法
・安全管理

イデオロギー
の共有
=町を笑顔にする
全体共有化の
必要性
地域づくりへ

短・中・長
期間を決めて
目標を

運営側の
情報共有
方針理解

教育の
意義とは

「しかる」
体験で
→社会で生きる

なぜ活動するのか？

Cグループ

・平日
・土日
・夜間帯
・オンライン活用

チャレンジ
スクール
（学習活動）
との連携

・参加のハードル
を下げる
（スキル、費用）
・誰でも参加可能
・障害者、
外国人全て

行政に加え、
民間企業・団体等、
多様な団体と
連携する（場所）

地域団体に
支える立場より
参加する人を
参加者からも
集める、
呼びかける

孫娘がサッカーを
やっているが
クラブチーム選び
が市外になって
いるので市内に
あるといい

オリンピック競技
にある新しい
スポーツ
スノーボードなど
が練習できる
施設があればいい

さいたま市全域
に組織を
広げてほしい
さいたま市
として取り組む

スポーツに関して
は施設の拡充に
取り組んでほしい
（体育館、プール
サッカー場）

企業との
連携

・多様な選択肢
の実現
・浦和スポーツ
クラブ
・少年団
・中学校(合同参加)
の部活動

学校(施設)開放
の調整
⇓
コーディネーター
の役割
（人材確保）

活動の
場の確保
（公共の施設）

子どもを預けて
自分の（も）
リフレッシュ

幅広い年齢層の
交わる場